

第3回石川県令和6年能登半島地震復旧・復興アドバイザーボード会議 議事概要

(開催要領)

1. 開催日時：令和6年9月9日（月）10時30分～12時00分
2. 場所：石川県庁舎11階 1109会議室
3. 出席委員（五十音順）：

浅野 幸子	減災と男女共同参画研修推進センター共同代表
安宅 和人	慶應義塾大学環境情報学部教授 LINEヤフー株式会社シニアストラテジスト
今村 久美	認定特定非営利活動法人カタリバ代表理事
小野田 泰明	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻教授
菅野 拓	大阪公立大学大学院文学研究科准教授
高橋 博之	株式会社雨風太陽代表取締役
太刀川 英輔	NOSIGNER代表 公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会理事長
藤沢 烈	一般社団法人RCF代表理事
谷内江 昭宏	金沢大学能登里山里海未来創造センター長
和田 隆志	公益社団法人大学コンソーシアム石川会長

(議事次第)

1. 開会挨拶 馳石川県知事
2. 議 事 石川県創造的復興プランの進捗管理について
3. 意見交換
4. 閉 会

(説明資料)

- 資料1：石川県創造的復興プランの進捗管理について
資料2：客観指標
資料3：リーディングプロジェクトの取組状況と今後の進め方（概要）
-

1. 開会挨拶

【馳知事】

第2回までのこのアドバイザーボード会議のご意見をいただき、また6月議会でも県議の皆さんにもご意見をいただき、それから、今村さんいろいろとありがとうございました。カタリバなどでいただいた、特に子どもたちや女性の声なども入れながら、様々なご意見を賜りましてですね、創造的復興プランをまず6月議会でお認めをいただきました。ありがとうございます。

今後は、この創造的復興プランを絵に描いた餅にはいけないので、このプランに基づいて、進捗管理をしていきたいと思いますという確認を、今日、第3回のアドバイザーボード会議でさせていただきます。

また、6月補正予算でお認めいただいて、この10月にも官民連携復興センターを能登でスタートさせることになりまして、とりわけ専門的NPOの団体の皆さん方と、我々、官が協力をして、誰1人取り残さない復興支援が必要だということでスタートいたします。ここの代表にアドバイザーボード会議の中から藤沢烈さんに入らせていただくことになりまして、二人三脚で息の長い取り組みとなりますが、少なくともまず9年間というスパンを考えておりますから、こうして進捗管理を、折に触れて行いながら、内容もアップデートしながら、同時に我々の目的である、能登半島、そこにお住まいする方々の生活、なりわい、これを元に戻すだけでなく理想的な希望のある地域にしていかなければいけないと、こういうふうに考えております。

今日出席しております防災服を着ている県庁幹部、つまり全庁挙げて、この能登の震災復興に取り組むということでもあります。

引き続き、皆さん方のご指導いただきながら、私どもも全力を挙げて能登の復興へ取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、中塚戦略広報監にもお願いしておりますが、この創造的復興プランを書いただけじゃ駄目ですから。県民の皆さんに分かるように、動画とかですね、イメージを出すことができるように、その広報の発信の方もしっかりとお願いしたいと思っています。

文章に書いてきちんとしておくのは当たり前ですが、多くの県民に、このリーディングプロジェクトを始めるイメージを持っていただいて、それを実現していく数値管理も必要ですが、1人1人が思い描いている理想というのは違ったりすることもありますので、やはり視覚的にも、広報を通じて、能登半島地震からの復旧復興、こういうイメージになっていくんだと、これも県民にお示ししたいと思っておりますし、それはなにかんづく半島で起きた大規模災害からどのように復活をしていくのかということ全国の皆さん方や、全世界にも発信をしていく必要があると思っておりますので、中塚戦略広報監の方よろしくお願いいたします。

私から以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

<開会挨拶をもって、馳知事退席>

2. 議事

【松本能登半島地震復旧・復興推進部次長】

本日は10名の委員の皆様のうち、オンライン出席を含めまして10名の皆様全員にご出席をいただいております。

また、本日は7月1日付けで着任をされた浅野副知事にも参加いただいております。それでは、議事に入らせていただきます。

以降の進行につきましては、座長でございます大学コンソーシアム石川の和田座長にお願いしたいと思います。それでは和田座長よろしくお願いたします

【和田座長】

ご紹介預かりました大学コンソーシアム石川の会長の和田でございます。よろしくお願いいたします。今回は第3回ということでございます。

皆様方にぜひ全体を俯瞰して、着地点あるいはゴールをイメージしてバックキャストを指定しながら議論させていただければと思っております。

ぜひ目指すべき方向性とそれに沿って、アドバイザーボードとしてご意見賜われればと思っております。

特に今回は、客観的な定量指標と、それからリーディングプロジェクトの進捗状況の確認と、その評価の仕組みが主な議論になっていると思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事に従いまして、まず事務局の方からご説明をいただけますでしょうか、よろしくお願いいたします。

【土岐能登半島地震・復旧復興推進部長】

<石川県創造的復興プランの進捗管理について>

(資料1～3に基づき説明)

3. 意見交換

(以下、非公開での意見交換。プランの進捗管理及びリーディングプロジェクトの推進に関する主な意見を抜粋。)

- ・主要統計データ（特に人口統計、有効求人倍率及び労働者数）については、男女別・世代別の統計を取っていくべき。
- ・量的な面での客観指標も重要だが、質の面での把握についても工夫していく必要がある。福祉事業所や児童施設などの復旧状況は数字で分かるが、運営できてない施設について、なぜ運営ができてないのか、運営できていないことで地域にどのような影響が及んでいるのか、といった質的な観点でも聞き取りなどをするべき。
- ・数字だけではなく、質的なデータを丁寧に見ていくことが不可欠であり、そのためには、プロジェクト化することと、プロジェクト化するためのタスクフォースを作ることが必要。学生や、トレーニングを受けた人たちが悉皆調査をしながら質的な評価を集めていくこともあり得る。
- ・客観指標と事業のイニシアチブがマッチしていない。県事業を進めても客観指標が埋まっていかないように見えるのでアライメントが必要。
- ・何をどこまで戻すのかがクリアではないので、非常に判断しづらい。例えば、学校施設は2割が復旧しているが、全部戻すつもりでやっているのかといった実態が見えてこない。しかもこの指標は県立高校の話であり、小中学校も含めた全体の実態が見えないため判断しづらいと思う。

- ・県のホームページであらゆる指標が追えるような形で示していただきたい。大事なことは可視化して、ステークホルダーが全て共有しながらアイデアを出すことができる仕組みにしていきたい。
- ・「能登が示すふるさとの未来」という全体の理念、全体像が常にわかるようにし、理念に沿って全体の取組が進んでいることを可視化することが必要。
- ・客観的に示している定量指標については、目安やタイムラインが書いてあるものと無いものがあるので、せつかく短期・中期・長期というタイムラインを示しているのも、少なくともどのぐらいの完了目安で進めているのかが分かるように示した方がよい。
- ・エリアによる差が大きい震災だが、エリア・地域別の数字がないと分かりづらい。どこが被災の影響が大きいかを示しながら、そこを集中的に戻すのか戻さないのかも含めて、クリアに議論できるようにしてほしい。
- ・被災された市町の方も、隣の市町の状況が分かると知恵の交換もしやすくなり、新しいアイデアが生まれやすい。エリアごとに指標を示すことが大事。
- ・能登半島全体を俯瞰するような視点を持つためにも、市町ごとの違いを可視化して示すことは大事。
- ・広域避難者の数も見えていかないといけない。放っておくとなかなか戻ってこなくなるので、その数をしっかりと把握し、必要なサポートを行う必要がある。
- ・地域の持続性を考え、地震後に新しく能登に来られた方々の人数も長期的には非常に重要な指標となるので、今から把握しておく必要がある。新たに入って来る人のためにも、新しく入ってくる事業者や起業する方も大事なので、地域ごとの事業所数や従業者数の推移も見えていただき、新しい方が増えていくことを見ていくのが大事だと考えている。
- ・ボランティアの数が急速に減ってきており、少なくとも年内は人数を維持する必要がある。期間限定かもしれないが、ボランティア数なども見ていくことが重要。
- ・リーディングプロジェクトの進捗については、手段と目的を区別する必要がある。それぞれの事業が、目標達成に向けてどうつながっているのかという視点で進捗管理をしていく必要がある。
- ・リーディングプロジェクトと個別の客観指標との間に埋もれてしまうものに注意が必要。生業の再建、医療福祉、教育といった分野に目がとられやすい。目指す方向性、理念に沿った包括的な進捗管理をするべき。
- ・アドバイザーリーボード会議として、進捗管理への関わり方がよく分からない。網羅的に全体の議論をするのは、半年に1回程度とし、各委員の専門分野や関心どころに沿って、専門部会のような形で議論する方がいいのではないかと。
- ・国も含め行政からの様々な支援制度が作られているが、民間の方々まで届いていない。地域の方々が、自分たちが当事者だという認識を持ちづらい状況になっている。マッチングの前の仕掛けが重要で、県庁や国から見てもマッチングする相手、プレイヤーが見えてこない。案件があつてマッチングするというよりは、地域のプレイヤーが自ら立ち上がるような後押しや伴走支援が必要。
- ・小中学校では、現場の先生方も被災者であり、目の前のことで手一杯になっている。学校再生に連動した令和の学びやICTへの支援について、県から先生方へのサポートをお願いしたい。
- ・古民家等の再生に向けて、被災した家屋を評価する建築の専門家が不足しており、県からのサポートをお願いしたい。
- ・被災者や被災事業者の視点でまとめていくことが必要。場合によっては市町と被災者が対立してしまうこともあるが、行政の中の信頼関係がなくなるといろいろなことが出遅れたり、

抜け落ちが生じるため、被災者や被災事業者が何に困っているのかという視点で指標をまとめ、とめていくことが大事。

- 人手不足が最大の問題であり、二地域居住を含む関係人口を創出していくことはスピードとの戦いになる。ふるさと住民登録制度も含め、能登の復興に関わった人たちは、当該自治体にいないスキルやノウハウ、ネットワークを持っている人たちであり、そういった方の名簿作りをはじめ、一刻も早く検討し進めていくことが、奥能登の未来に繋がると思う。
- 能登半島国立公園・絶景海道・トキの3つは非常に密接しており、生態系など環境保全を考慮しながらインフラ整備を進めることが重要である。特に、トキの餌場にもなる、流域の出口となる干潟の保全を図りながら整備をすることが重要。
- これから能登に人を呼び寄せるにあたって、仮設住宅や宿泊施設など、トレーラーハウスを活用することで、より柔軟で省力的に事業が進められる。ただし、人を呼び寄せるための工夫は必要。
- 一次産業の復活が非常に重要。漁業や農業など、産業として復活させるだけでなく、宿泊施設で提供される料理の材料として使われるなど、人を惹きつけることができる能登の魅力あるコンテンツを作り出すことで、地域ブランディングの柱となる。

4. 閉会